

源

THE ORIGIN

BOAT RACE とともに

地方自治体が主催するボートレース事業からの拠出金をもとに、日本財団は活動しています。拠出金は、ボートレースの売上金の約2.5%に当たるもので、その配分は「モーターボート競走法（1951年制定）」の定めに従い、厳正に行われています。



やまと学校[福岡県柳川市、2009年9月]



ボートレース試走会[長崎県島原外港、1954年3月]



開催当初のスタンド[長崎県大村ボートレース場、1954年ごろ]

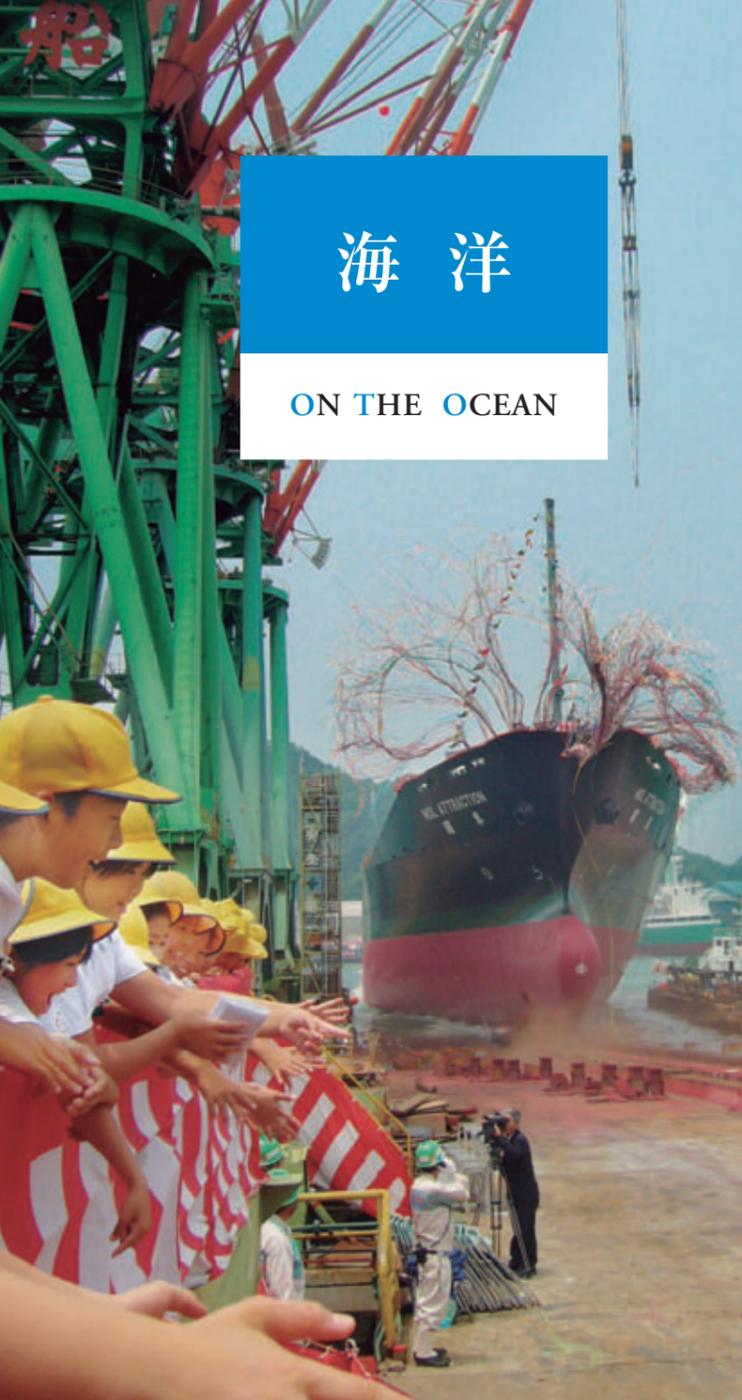


SG第14回チャレンジカップ[長崎県大村ボートレース場、2011年11月]

海洋

ON THE OCEAN

次世代に 海を引き継ぐために



小学生の進水式見学
【広島県呉市、2007年7月】



航海実習の一環として、ザトウクジラの親子を観察する学生たち
【北海道釧路沖、2007年7月】

日本が海洋国家であることを踏まえ、船舶・海洋に関する研究開発、航行安全・海洋環境保全などにかかわる諸問題に取り組み、海洋教育の普及や促進、海にかかわる人材育成などの支援を行っています。また、造船産業の振興を目的として、造船業者に資金の貸付を行っています。



北朝鮮工作船の展示。
9か月間で162万人の国民が見学
【東京お台場・船の科学館、2003年5月】



海洋体験教室で
海岸のゴミ拾いをする
子どもたち
【北海道神恵内村、
2009年6月】



相生技能センターでの
溶接技能研修
【兵庫県相生市、
2010年5月】



第2回オープンウォータースイミング大会【神奈川県藤沢市、2005年8月】

公益・ボランティア

INSIDE JAPAN

国内において、障害者の地域生活支援、福祉車両の配備、ホスピス・プログラム、子どもの健全育成、環境保全、災害援助、芸術文化や生涯スポーツの推進、犯罪被害者支援など、地域に密着した活動を支援しています。



在宅療養を支えるデイホスピス



太鼓チャリティーコンサート[東京・草月ホール、2003年5月]



日本財団が配備した福祉車両と利用者の皆さん



子どもたちに野外活動を通じた教育を実践する指導者支援セミナー[福島県東白川郡、2006年7月]



障害者によるアール・ブリュット作品を展示する「薬工ミュージアム」がオープン[高知県高知市、2011年12月]



子どもたちの登下校時を中心とした、地域住民による自主パトロール活動を支援する青ハトを配備[鹿児島県鹿児島市、2008年7月]



誰もが地域で豊かに暮らせる社会を目指し、障害者の生活を支援[福井県、2011年10月]

国際

WORLDWIDE

人を育て、絆を育む



ハンセン病回復者が住む村の子どもたち【タンザニア・ベンバ島】



音声読み上げソフトを利用して仕事する視覚障害者【カンボジア】



ハンセン病患者が住むコロニー【アンゴラ、2003年7月】

国際機関、各国政府、NGOなどと協力し、人々が直面する貧困、飢餓、病気などの基本的諸課題の解決や社会発展を担う人材の育成と、ネットワーク構築を目指した活動を展開しています。



身体障害者に日本財団の福祉車両を寄贈【タイ】



新設された校舎前で笑顔の子どもたち【ミャンマー】



【SG2000】プロジェクトによって増産された落花生【ウガンダ】



【SG2000】プロジェクトの一環で衛生的で均質な商品づくりの指導を受ける女性たち【エチオピア】

使命

MISSION

復旧、復興、 新たな社会づくり

民間ならではの柔軟性と助成事業で培った専門性を生かし、日本財団は世界中の人々から託された想いととも、被災地支援を展開してきました。今後もさまざまな主体とのパートナーシップを一層深めつつ、民が民を支える新たな社会づくりを行っていきます。



日本財団の協力のもと、ASEAN10か国の若者ら72人が避難所を訪れ、炊き出しなどを行った
[宮城県石巻市、2011年6月]



世界各国から多くの学生が参加した学生ボランティア隊



被災地で活動する学生ボランティア[宮城県田代島、2011年7月]



被災者の心と体をほぐす足湯ボランティア[宮城県石巻市、2011年6月]



震災後、迅速に実施した弔慰金・見舞金の配布[宮城県女川町、2011年4月]



ダイムラー社による特殊車両の寄贈。世界最大のロシア製航空輸送機「アントフ」によって成田空港に届けられた[成田国際空港、2011年4月]



被災した岩手県・陸前高田市



日本各地で東日本大震災街頭募金を実施



被災地に寄せられた多くのメッセージ[岩手県釜石市、2011年4月]